

天皇家にはなぜ姓がないのか？

～以下、書評「『孟子』の革命思想と日本一天皇家にはなぜ姓がないのか」（著者：思想家松本健一）

<評者：作家 赤坂真理>（朝日新聞 14.9.14）より～

（・・・・・・は中略部分。太字は引用者による。）

天皇家には、なぜ姓がないの？ 子供みたいな問いだからこそ、根源的である。・・・・・・**天皇とは「何者であるかを意図的に隠した」存在である**・・・・・・日本の最大の謎・・・・・・意図的に素姓を隠した存在・・・・・・。孟子もまた意図的に隠された思想家である・・・・・・。権力者に重用された孔子の思想と異なり、孟子は権力者に隠された形跡が随所にある。そして時に特異的に浮上する。孟子の思想の核は革命論で、**徳を失った君子は討たれてよいとするもの**だ。中国では**易姓革命**と言い、**王朝ごとに姓が変わる**。これは日本にはふさわしくないと考えた誰かがいつのころか、**天皇家の姓をなくしたら**しいのである。しかし、姓がないからこそ、「万世一系」のフィクションも生まれ、天皇はどんな物語も引き受けうる器となったのではないか。歴代の覇者たちは、いかに覇権を極めようと天皇を討たず、むしろ「利用」した。**姓をなくした「発明」の影響は、日本史を貫いている**。ざっと大化の改新から二・二六事件まで。とりわけよくわかるのは「明治維新」である。実質上の革命。にもかかわらず、「維新」と言い換えた・・・・・・。「維（こ）れ新（あらた）」にしたからには革命の立役者は「維新」の敵対者とされなければならなかった。これが西郷隆盛に起きたことだ。「戦後のかたち」「国のかたち」がゆらぎ、それを問う機運が高まっている。領土問題や憲法解釈のあり方、日本とは何かが根本から問われている。その問いは古代から、すでにあつたものだ。民主主義にしてみても、欧米由来以外の道筋があり歴史がある。そこから考えてみなければ始まらない。